

**J.S.バッハ(鈴木大介編):カンタータ《心と口と行いと命もて》より コラール「主よ、人の望みの喜びよ」**

バッハの教会カンタータは、現存するものだけで 200 曲近くある。1723 年作曲のカンタータ第 147 番《心と口と行いと命もて》は、2 部構成の全 10 曲からなり、各部の最後に歌われるコラールが本曲。親しみやすい旋律によって、非常に人気が高い。

**アーン(徳永真一郎編):クロリスに**

17 世紀バロック時代の詩人テオフィル・ド・ヴィオーの詩に付曲した、アーンの代表的歌曲。バロック風の前奏に続いて、師マスネ譲りの甘美な旋律が心地よさを醸し出す。

**J.S.バッハの声楽曲(鈴木大介編)**

バッハの協力のもと、実に 954 篇もの宗教歌曲をシェメツリがまとめて 1736 年に出版したのが《シェメツリ歌曲集》。そのなかでバッハの真作と認められる曲の 1 つが「来たれ、甘き死よ」。バッハが好んだ「天上の安らぎ」、すなわち死への憧憬が歌われている。

バッハの死の前年、1749 年に完成した《ミサ曲 口短調》は、4 部・全 27 曲からなる。アリア「父の右に座し給う者よ」はその第 10 曲。原曲では、オーボエ・ダモーレ独奏による前奏に、アルト独唱が続く。

受胎告知を受けたマリアへの讃歌《マニフィカト》(全 12 曲)の第 9 曲に置かれた、朗らかな明るさに満ちたアリアが「飢えたる者を満ちたらせ」。

1727 年作曲のカンタータ第 82 番《我は満ち足れり》(全 5 曲)は、バス独唱用カンタータ。第 1 曲のアリア「我は満ち足れり」は、味わい深い前奏に続いて、天上の安らぎへの憧れが歌われる。

**アメリカ民謡:シェナンドー**

19 世紀から歌われているアメリカ民謡で、歌詞から「広大なミズーリ川を越えて」とも呼ばれる。「シェナンドー」が(シェナンドー川か、恋人の名前か…)何を指すかは諸説ある。

**J.S.バッハ(伝 G.H.シュテルツェル)(鈴木大介編):《アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳》より「御身が共にあるならば」**

当時はバッハを凌ぐ名声を得ていた作曲家ゴットフリート・ハインリヒ・シュテルツェルによる歌劇《ディオメデス》中のアリア「御身が共にあるならば」は、J.S.バッハによって《アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳》に収められ、愛唱されることとなった。

**パーセル:グラウンドによる夕べの讃歌**

17 世紀イングランドの作曲家ヘンリー・パーセルが 1688 年に作曲したウィリアム・フラーの詩による讃歌「いま太陽はその光を覆い」は、別名「夕べの讃歌」でも知られている。一日を

終えた安らぎを願うタペの祈りである。

### バーンスタイン:《ミサ曲》より 讃歌と詩篇「簡素な歌」

作曲家としてのバーンスタイン畢生の大作《ミサ曲》は、1971年ケネディ・センターのこけら落としのために書かれた、ジャンルを超えた異色のミサ曲。讃歌と詩篇「簡素な歌」は、その導入となる「ミサ前の祈祷」で若い司祭によって歌われるポップなナンバー。

### ヴィラ＝ロボス:ブラジル風バツハ 第5番 より アリア「カンティレーナ」

ヴィラ＝ロボスの《ブラジル風バツハ 第5番》(全2楽章)は、ソプラノ独唱と8つのチェロのための作品。その第1楽章アリア「カンティレーナ」(1938)は、ヴォカリーズに始まり、最後はハミングで復唱される旋律が有名。

### J.S.バツハの声楽曲 (鈴木大介編)

全6部からなる《クリスマス・オラトリオ》は1734年の作。初演は1734年のクリスマスから6日に分けて行なわれた。第1部・第4曲のアリア「備えよ、シオンよ、心からなる愛もて」は、救世主の到来を告げる名曲。

1727年に作曲された《マタイ受難曲》は、福音書「マタイ伝」にもとづくバツハの教会音楽の傑作。2部構成の第2部・第39曲のアリア「憐れみ給え、わが神よ」は、ペテロがキリストを否認する場面で歌われる。

今日伝えられるバツハのもう一つの受難曲が、福音書「ヨハネ伝」にもとづく《ヨハネ受難曲》(1724)。2部構成の第2部・第30曲のアリア「成し遂げられた」は、磔刑に処されたイエスの最期の言葉。

アリア「アニュス・デイ」(神の子羊)は、《ミサ曲 口短調》の終盤で歌われる、ひたひたと心を打つ名旋律。

前出のカンタータ第82番《我は満ち足りり》第3曲のアリア「眠りなさい」は、穏やかな旋律で「眠りなさい、疲れた目よ」と歌う。

1726年作曲のカンタータ170番《満ち足りた安らぎ、魂の愉しむ悦びよ》(全5曲)の第1曲のアリア「満ち足りた安らぎ」は、究極の癒しの音楽。